

新国語便覧

デジタルコンテンツ

秀学社

各作品の絵巻や写本などを鑑賞できます。

古典作品拡張資料

竹取物語

枕草子

おくのほそ道

平家物語

徒然草



四季



国語に関連する四季の代表的な動植物を紹介しています。鳥や虫の鳴き声も聞けます。

朗読の詩歌

プリント

古文・漢文・言語事項テスト

漢字・語句練習シート

百人一首暗記シート

おすすめ作品全文

ことわざや四字熟語などのドリルを作成できるツールです。

古文・漢文や文法などのテスト問題を収録しています。

四季

春

トップへ
戻る

クリックすると
鳴き声が聞けます。



きざし (キジ) 日本を代表する鳥。春の繁殖期になると雄は「キーン」と早高く鳴く。



ひばり

うらうらに
照れる春日に
ひばりがり心悲しも
ひとりし思へば (長門歌集)



うそ

声やはらぐ
鶯の日あたる
胸も見て (新古今和歌集)



つばき



つばき



うそ



菜の花



つばくらめ (ツバメ)

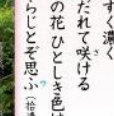
菜の花や
月は東に
日は西に (新古今和歌集)



やまぶき (左) ふち (右)



からたち



すはう



かたかご (カタクリ)



もも



もも



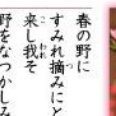
あしび (アセビ)



すみれ



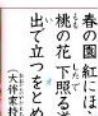
すみれ



すみれ



すみれ



すみれ



春の山

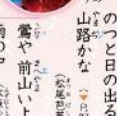
人はいさ心も知らずふることは
花ぞ昔の香にほひける (長門歌集)



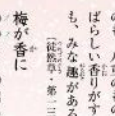
春の山



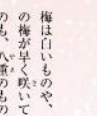
うそ



うそ



うそ



うそ



ふきのとう



ふきのとう



ふきのとう



ふきのとう



ふきのとう



ふきのとう



ふきのとう



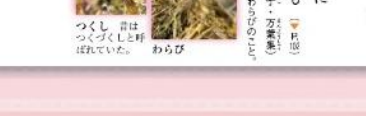
ふきのとう



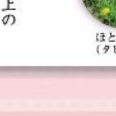
ふきのとう



ふきのとう



ふきのとう



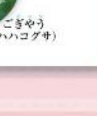
ふきのとう



ふきのとう



ふきのとう



ふきのとう

平家物語「八嶋合戦図屏風」



番号をクリックすると...



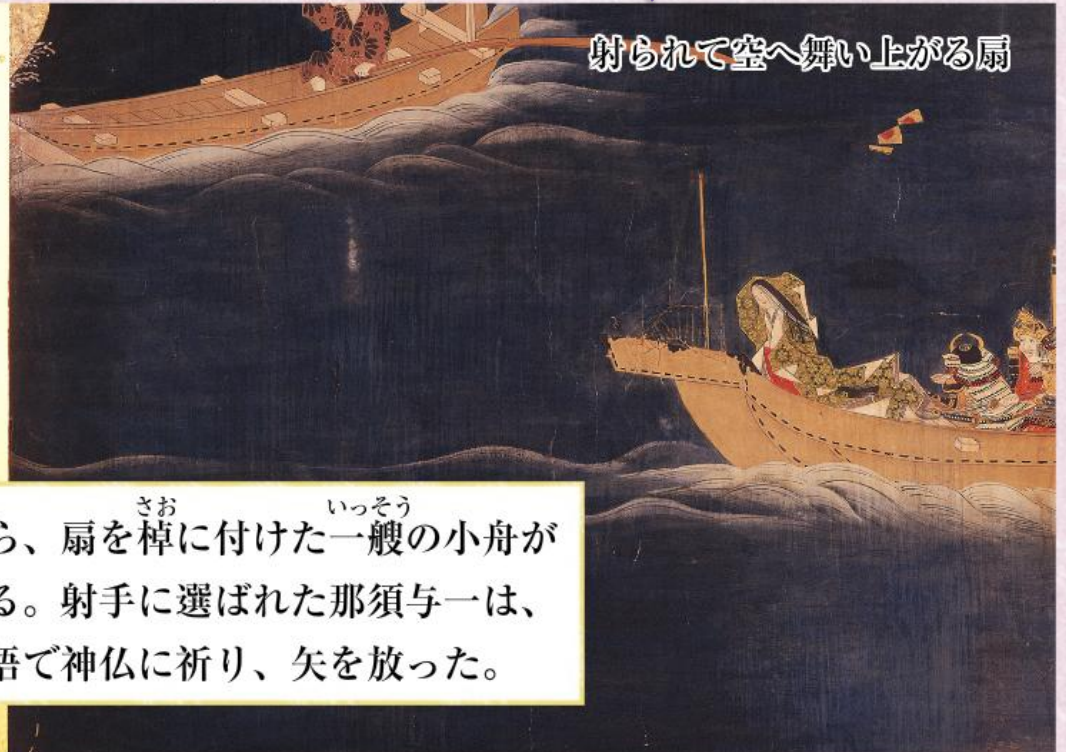
拡大することができます。

描かれている場面の拡大図と
説明をご覧ください。

3 ^{おうぎ} 扇 ^{まと} の ^{なすのよいち} 的を射る那須与一



十分に引き絞って
矢を放つ那須与一



射られて空へ舞い上がる扇

平家方から、扇を^{さお}棹に付けた^{いっそう}一艘の小舟が
漕ぎ寄せる。射手に選ばれた那須与一は、
悲壮な覚悟で神仏に祈り、矢を放った。

◀ 次へ

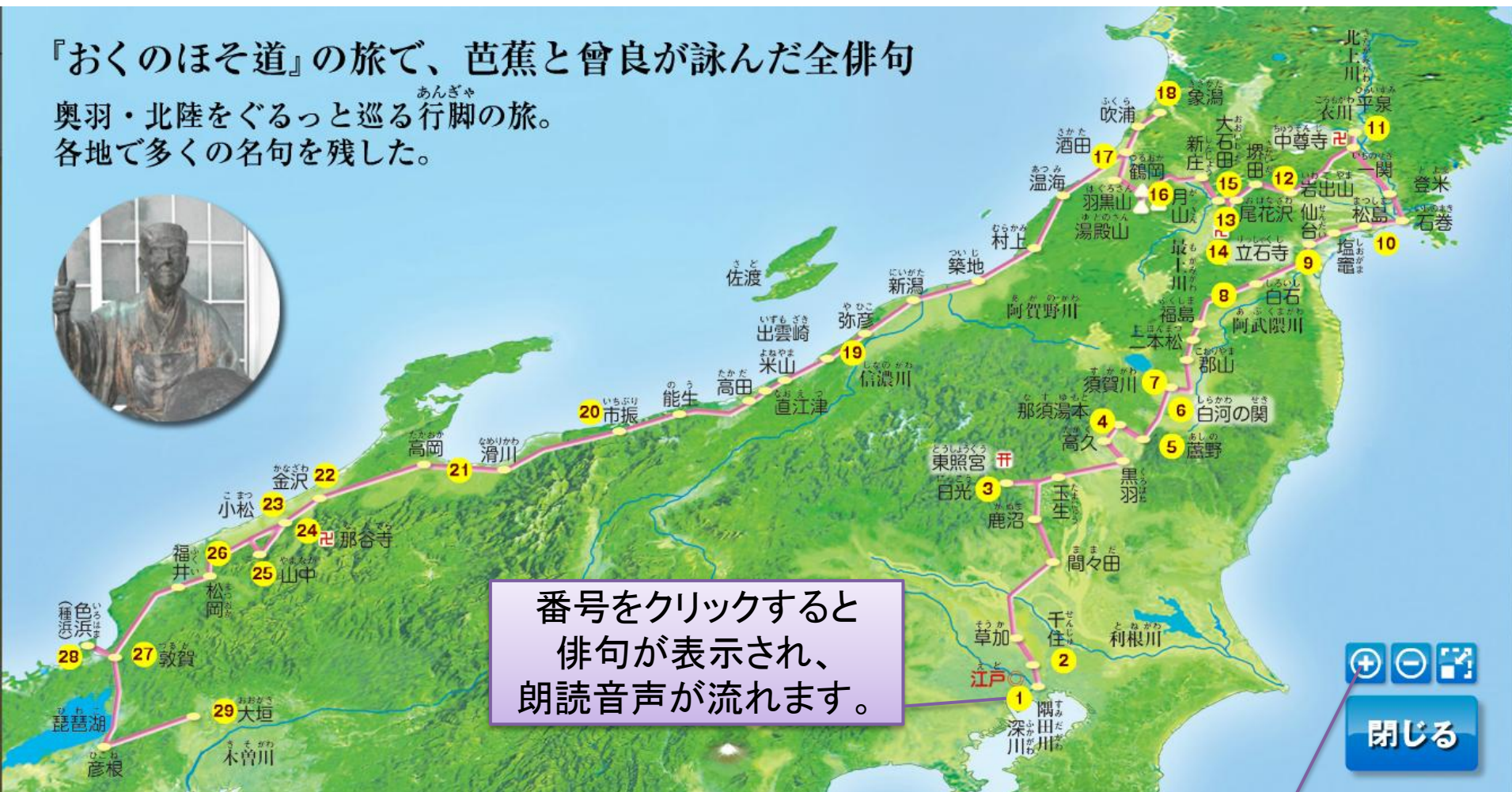


閉じる

おくのほそ道行程図と全俳句

『おくのほそ道』の旅で、芭蕉と曾良が詠んだ全俳句

奥羽・北陸をぐるっと巡る行脚の旅。
各地で多くの名句を残した。



鑑賞文シート

鑑賞文「はじめの一歩」ワークシート

年 組 番 氏 名

(月 日)

鑑賞した作品の名前

作文練習（教科書の応用）や、古典学習を深めるときなど、機会をとらえて使おう！

◆鑑賞文の書き方・新国語便覧235ページ



5 書いたものを
交流して
次に生かそう

発見へのヒント

↑
そこが君には
どう見える？

- ☐ ぱつと見ると（全体）
- ☐ じっくり見ると（細部）
- ☐ 構図
- ☐ 色づかいは
- ☐ 筆づかいは
- ☐ 人物の表情、しぐさ
- ☐ 人物の周囲には
- ☐ 小道具
- ☐ 背景
- ☐ 暮らしがら
- ☐ 事件

である。

12 て使えそうな材料に○をつけよう
 困んだ○に、使いたい順に数字を打とう

書かれた絵巻のイメージ

□ この絵の魅力は…だ。なぜかというところ…

□ 私にとって、この絵は…

収録された絵巻を見て鑑賞文を書くシートです。

仲間のうまく書けた箇所を挙げてみよう

今後使いたい語句、言い回し、表現をメモしよう

次回への課題、反省点（あれば）

・自分の文章で

鑑賞した作品の名前

竹取物語 大伴のみゆき

作文練習(教科書の応用)や、古典学習を深めるときなど、機会をとらえて使おう!

◆鑑賞文の書き方→新国語便覧235ページ

1 ひらめきをメモしよう



2 アイディアを交流しよう



3 書くことをまとめよう



4 さあ書こう!

5 書いたものを交流して次に生かそう

【内容】絵を眺めて気づくこと・感じることを

【理由と根拠】どこから・どういついつに気がなぜ

発見へのヒント

- 1 真ん中の雷神様がおどろおどろしい
 - ↑赤い光のようなもの(雷?)や黒い雲が怖そう。
- 2 右の大納言は勇ましい
 - ↑おんぶされている。腰が抜けたか?
- 3 左の大納言はなんだかみっともない
 - ↑弓を持って雷神をにらみつけているように見える。戦うつもり。
- 4 雷神がユーモラス
 - ↑表情がおもしろい。

自分にはない仲間の【内容】を書こう!

仲間の挙げた【理由と根拠】は?

そこが君にはどう見える?

- ・見物している人はだれ?

↑左下に大納言を眺めている人がいる。

↑自分と正反対に見えている

●この絵の魅力は一言でいうと、

大納言の変わりよう

である。

- ・1 2で使えるような材料に○をつけよう
- ・囲んだ○に、使いたい順に数字を打とう

と	も	抜	お		ら	こ	雷	わ	
で	大	け	ん	と	み	の	神	り	こ
大	納	た	ぶ	こ	つ	雷	様	よ	の
納	言	の	さ	ろ	け	神	が	う	の
言	を	だ	れ	が	て	と	雷	だ	の
が	笑	ろ	て	一	舟	戦	を		魅
対	っ	う		方	に	う	ま	絵	力
比	て	か	み		立	つ	と	の	は
的	い		っ	左	っ	も	っ	中	
に	る	よ	と	の	て	り	て	央	一
描	よ	く	も	大	い	だ	い	に	言
か	う	見	な	納	る	ろ	る		で
れ	だ	る	い	言		う		お	言
て		と	姿	を			右	ど	う
い	戦		で	見		弓	の	ろ	と
て	い	雷	あ	る		を	大	お	大
面	の	神	る	と		持	納	ど	納
白	前	の				ち	言	ろ	言
い	と	表	腰	男			は	し	の
	後	情	が	に		に		く	変

書き始めのヒント

- この絵の魅力は...だ。なぜかというところ... □私にとって、この絵は...
- この絵を眺めていると、私にはこんなお話が見えてくる。... □絵を見て気づいたことがある。それは...

仲間のうまく書けた箇所を挙げてみよう

左下で見物している人々に着目した点

次回への課題、反省点(あれば)

うまく四字熟語を使ってみたい

今後使いたい語句、言い回し、表現をメモしよう

・仲間の文章から

軽挙妄動

・自分の文章で

対比的に描かれて

1 歴史的仮名遣い／竹取物語

名前

年組番

100点

1 「歴史的仮名遣い」 次の歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書きなさい。

5点×9

① あはれ

② くちをし

③ まうす(申す)

④ おほかた

⑤ いみじう

⑥ けふ(今日)

⑦ せむかたなし

⑧ こゑ(声)

⑨ にほひ

(1) 「歴史的仮名遣い」——線A「いふ」、イ「よろづ」、ウ「使ひ」、エ「なむ」、オ「あたり」を現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書きなさい。

さい。

ア () イ ()

ウ () エ ()

オ () ()

(2) 「古語の意味」——線①「あやしがりて」、②「いと」、③「うつくしうて」の意味を書きなさい。

① ()

② ()

③ ()

2 次の古文を読み、あとの問いに答えなさい。

5点×11

今は昔、竹取の翁といふものありけり。

野山にまじりて竹を取りつつ、よろづのことに使ひけり。名をば、さぬきの造となむいひける。

その竹の中に、もと光る竹なむ一筋ありける。あやしがりて、寄りて見るに、筒の中光りたり。それを見れば、三寸ばかりなる人、いとうつくしうてゐたり。

(「竹取物語」より)

(3) 「動作の主体」——線A「寄りて見るに」はだれの動作ですか。古文中の漢字一字で書きなさい。

(4) 「助詞の省略」——線B「筒の中光りたり」を現代語訳するとき、「筒の中」と「光りたり」の間に補う助詞を一つ書きなさい。

筒の中 □ 光っていた

(5) 「文学史」 竹取物語が成立した時代を書きなさい。

() 時代

1 歴史的仮名遣い／竹取物語

名前

年組番

100点

1 「歴史的仮名遣い」 次の歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書きなさい。

5点×9

- | | |
|-----------|----------|
| ① あはれ | (あわれ) |
| ② くちをし | (くちおし) |
| ③ まうす(申す) | (もうす) |
| ④ おほかた | (おおかた) |
| ⑤ いみじう | (いみじゅう) |
| ⑥ けふ(今日) | (きょう) |
| ⑦ せむかたなし | (せんかたなし) |
| ⑧ こゑ(声) | (こえ) |
| ⑨ にほひ | (にほひ) |

2 次の古文を読み、あとの問いに答えなさい。

5点×11

今は昔、竹取の翁といふものありけり。
 野山にまじりて竹を取りつつ、よろづのこ
 とに使ひけり。名をば、さぬきの造とな
 むいひける。

その竹の中に、もと光る竹なむ一筋あり
 ける。あやしがりて、寄りて見るに、筒の
 中光りたり。それを見れば、三寸ばかりな
 る人、いと うつくしうて るたり。

〔「竹取物語」より〕

(1) 「歴史的仮名遣い」——線A「いふ」、イ「よろづ」、ウ「使ひ」、エ「なむ」、オ「ゐたり」を現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書きなさい。

- | | | | |
|---|-------|---|-------|
| ア | (いう) | イ | (よろず) |
| ウ | (つかい) | エ | (なん) |
| オ | (いたり) | | |

(2) 「古語の意味」——線①「あやしがりて」、②「いと」、③「うつくしうて」の意味を書きなさい。

- | | |
|---|---------------|
| ① | (例) 不思議に思つて |
| ② | (例) たいそう・とても |
| ③ | (例) かわいらしい様子で |

(3) 「動作の主体」——線A「寄りて見るに」はだれの動作ですか。古文中の漢字一字で書きなさい。

翁

(4) 「助詞の省略」——線B「筒の中光りたり」を現代語訳するとき、「筒の中」と「光りたり」の間に補う助詞を一つ書きなさい。

筒の中 □ 光っていた

が

(5) 「文学史」 竹取物語が成立した時代を書きなさい。

(平安) 時代

1 部首／行書

名前

年組番

100点

1 〔部首〕 A群とB群からそれぞれ一つずつを組み合わせてできる漢字を、四つ書きなさい。

A群（部首）

B群

4点×4

亻 金 イ
厂 イ 頁

予 刀 失
直 占 央

2 〔部首〕 次の漢字の部首名をア～カから選び、それぞれ記号で答えなさい。

4点×4

① 裸

② 快

③ 畑

④ 利

ア ひへん

イ リっとう

ウ リっしんべん

エ のぎへん

オ た

カ ころもへん

3 〔部首〕 次の漢字の部首名をひらがなで書きなさい。

4点×4

① 紙

② 写

③ 床

④ 投

4 〔部首〕 次の部首の漢字を□から選んで書きなさい。

4点×4

① にくづき

② つきへん

③ こぎとへん

④ おおぎと

明 防 服 眠 部 腹

5 〔部首〕 次の漢字の部首をそれぞれア～ウから選び、記号で答えなさい。

4点×4

① 放

「ア」 イカ ウ文

② 突

「ア」 イ穴 ウ大

③ 視

「ア」 ネイ見 ウル

④ 蒸

「ア」 サイ了 ウハ

6 〔行書〕 次の各問いに答えなさい。

(1) 「桃」を行書で書いたものを次から選び、記号で答えなさい。

4点

ア 挑

イ 桃 ウ 跳 エ 眺

(2) 「祝」と同じ部首をもつ漢字を次の行書の漢字から選び、記号で答えなさい。

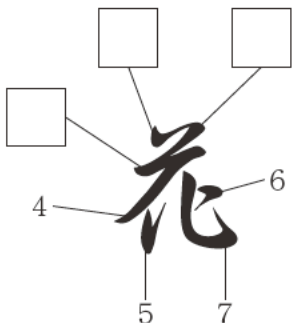
4点

ア 複

イ 秋 ウ 祖 エ 梓

(3) 「花」を行書で書く場合の1～3画目の筆順を、□に書きなさい。

完答 4点



(4) 次の行書を楷書で書いたときの総画数を、漢数字で書きなさい。

4点×2

ア 福

（画） イ 組

（画）

1 部首／行書

名前

年組番

100点

1 〔部首〕 A群とB群からそれぞれ一つずつを組み合わせることができる漢字を、四つ書きなさい。

A群 (部首)

B群

4点×4

亻 金 イ
厂 イ 頁

予 刀 失
直 占 央

辺

鉄

預

値

2 〔部首〕 次の漢字の部首名をア～カから選び、それぞれ記号で答えなさい。

4点×4

① 裸 (カ) ② 快 (ウ)

③ 畑 (オ) ④ 利 (イ)

ア ひへん イ リっとう

ウ リっしんべん エ のぎへん

オ た カ ころもへん

3 〔部首〕 次の漢字の部首名をひらがなで書きなさい。

4点×4

① 紙 (いとへん) ② 写 (わかんむり)

③ 床 (まだれ) ④ 投 (てへん)

4 〔部首〕 次の部首の漢字を□から選んで書きなさい。

4点×4

① にくづき (腹) ② つきへん (服)

③ こざとへん (防) ④ おおざと (部)

明 防 服 眠 部 腹

5 〔部首〕 次の漢字の部首をそれぞれア～ウから選び、記号で答えなさい。

4点×4

① 放 [ア] イカ ウ文 (ウ)

② 突 [ア] イ穴 ウ大 (イ)

③ 視 [ア] ネイ見 ウル (イ)

④ 蒸 [ア] サイ了 ウハ (ア)

6 〔行書〕 次の各問いに答えなさい。

(1) 「桃」を行書で書いたものを次から選び、記号で答えなさい。

4点

ア 挑 イ 桃 ウ 跳 エ 眺 (イ)

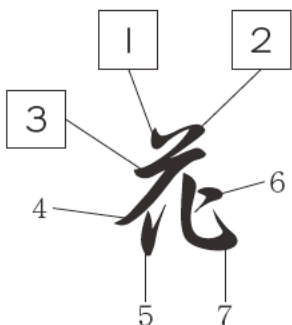
(2) 「祝」と同じ部首をもつ漢字を次の行書の漢字から選び、記号で答えなさい。

4点

ア 複 イ 秋 ウ 祖 エ 梓 (ウ)

(3) 「花」を行書で書く場合の1～3画目の筆順を、□に書きなさい。

完答 4点



(4) 次の行書を楷書で書いたときの総画数を、漢数字で書きなさい。

4点×2

ア 福 (十三) 画 イ 組 (十一) 画

1 言葉の単位

名前

年 組 番

/ 100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

7点×5

現役を引退した後の私の最大の喜びは、家の周囲に広がる美しい森の間を歩くことであつた。

そこには多くの植物はもちろん、小動物も見られ、さびしい日々を送る私の心をなぐさめてくれたものだった。

私は足を運びながら、これまでの人生を振り返る。いろいろな思いがあるものの、こんな美しい自然の中を今歩けるのだから、それほど悪い人生ではなかったと思えるのだった。

(1) 【段落】この文章の段落の数を、漢数字で書きなさい。

(2) 【文】この文章の文の数を、漢数字で書きなさい。

(3) 【文節】——線①を文節に正しく分けたものを、次から一つ選びなさい。

ア 美しい／森の間を／歩く

イ 美しい／森の／間を／歩く

ウ 美しい／森の／間／を／歩く

エ 美しい／森／の／間／を／歩く

(4) 【単語】——線②、③を単語に正しく分けたものを、次から一つ選びなさい。

ア 人生を／振り返る

イ 人生を／振り／返る

ウ 人生／を／振り返る

エ 人生／を／振り／返る

2

【文節】次の文を、例にならって、／で文節に分けなさい。

7点×5

例 空に／大きな／月が／かかる。

③

ア 悪い／人生では／なかった
イ 悪い／人生／では／なかった
ウ 悪い／人生／では／なかつ／た
エ 悪い／人生／て／は／なかつ／た

① 兄は数学がととても得意だ。

② 美しい夕日が空を染めた。

③ 君が意見を言う必要はない。

④ どうして彼は来ないのだろう。

⑤ 外国の人と話してみたい。

3

【単語】次の文の単語の数を、漢数字で書きなさい。

6点×5

① 妹が姉を追いまわす。

② 明日は晴れると思います。

③ 意外な手紙が友達から来た。

④ その荷物を取ってください。

⑤ こういう話を一度したかった。

1 言葉の単位

解答

1 (1) 三

(2) 四

(3) イ

(4) ウ

③ エ

2 ① 兄は／数学が／とても／得意だ。

② 美しい／夕日が／空を／染めた。

③ 君が／意見を／言う／必要は／ない。

④ どうして／彼は／来ないのだろう。

⑤ 外国の／人と／話して／みたい。

3 ① 五

② 六

③ 七

④ 七

⑤ 八

解説

1 (1) 段落とは、行を改めて書き出した文章のまとまり。最初の行は一字下げて書く。

(2) 文は、句点(。)などによって区切られる。

(3) 文節は、「ネ・サ」を入れて区切ることができるところを考える。

(4) ② 「振り返る」は一つの動作を意味する動詞なので、一単語である。

③ 「ではなかった」は、「でなかった」と「は」を外しても文意が同じなので、「は」が一つの助詞だとわかる。

2 文節は、「ネ・サ」を入れて区切ることができるところを考える。

③ 「ない」は、直前に助詞「は」があることから、形容詞として別の文節になる。

④ 「来ないのだろう」で一文節である。

⑤ 「話してみたい」は、補助の関係の二文節である。

3 単語分けは、文節に分け、さらにひとつの意味を示すまとまりに分けて考える。

① 妹／が／姉／を／追いまわす。

② 明日／は／晴れる／と／思い／ます。

③ 意外な／手紙／が／友達／から／来／た。

④ そこ／の／荷物／を／取っ／て／ください。

⑤ こう／いう／話／を／一度／し／たかつ／た。

漢字・語句 練習シート

エクセルで語句を抽出してドリルを作成できます。

ことわざ

年

組

番
名
前

語句

虻蜂取らず

石の上にも三年

石橋をたたいて渡る

急がば回れ

馬の耳に念仏

鬼に金棒

果報は寝て待て

知らぬが仏

灯台下暗し

どんぐりの背比べ

情けは人のためならず

猫に小判

百聞は一見にしかず

身から出たさび

焼け石に水

百人一首暗記シート

□ 1 秋の田の あき たの

かりほの庵の 苔をあらみ いお とま

□ 2 春すぎて はる

夏来にけらし 白妙の なつき しらたえ

□ 3 あしびきの

山鳥の尾の しだり尾の やまどり お

□ 4 田子の浦に たご うら

うち出でて見れば 白妙の い み しらたえ

□ 5 奥山に おくやま

紅葉踏み分け 鳴く鹿の もみじふ な しか

□ 6 かささぎの

渡せる橋に おく霜の わた はし しも

□ 7 天の原 あま はら

ふりさけ見れば 春日なる み かすが

□ 8 わが庵は いお

都のたつみしかぞ住む みやこ す

□ 9 花の色は はないろ

移りにけりない たづらに うつ

□ 10 これやこの

行くも帰るも 別れては ゆ かえ わか

わが衣手は 露にぬれつつ ころもで つゆ

衣ほすてふ 天の香具山 ころも チョウ アマ かぐやま

ながながし夜をひとりかも寝む よ ね

富士の高嶺に 雪は降りつつ ふじ たかね ゆき ふ

声聞くときぞ 秋は悲しき こゑき あきかな

白きを見れば 夜ぞふけにける しろき み よ

三笠の山に いでし月かも みかさ やま つき

世をうち山と 人はいふなり よ やま ひと

わが身世にふる なかめせしに みよ

知るも知らぬも 逢坂の関 し おうさか せき

わがころも
てはつゆに
ぬれつつ

ころもほす
てふあまの
かくやま

なかなかし
よをひとり
かもねむ

ふしのたか
ねにゆきは
ふりつつ

こゑきくと
きそあきは
かなしき

しろきを見
ればよそふ
けにける

みかさのや
まにいてし
つきかも

よをうちや
まとひとは
いふなり

わかみよに
ふるななか
めせしに

しるもしら
ぬもあふさ
かのせき

点線部で折りたたんで、暗記をすることができます。